

伊方町議会第 77 回定例会に係る一般質問通告内容

質問者	質問の大綱	質問の相手
加藤 智明 議員	1 防災対策について	町 長
質問の要旨		
本年の元日に能登半島地震が起こり、災害関連死を含めると 200 人以上の方が亡くなられ、甚大な被害を及ぼす災害が起きました。 また、道路等の寸断も多く、多くの場所で発生し、地震による地盤の隆起で、川から水をくみ上げることができなくなり、瓦礫にふさがれて防火水槽が一部使えなくなるなど、消火活動を困難にしたといわれ、水道の供給復旧に至っては多くの地域で 1 か月以上かかったと聞いております。 半島の地形による脆さが浮き彫りとなった災害となり、改めて備蓄等の事前準備が必要だと痛感した矢先に、4 月 17 日に愛媛県でも震度階級を導入した 1996 年以降では初めてとなる、震度 6 弱の地震が発生し、南海トラフにも繋がるのではないかと、緊張が高まりました。 幸い伊方町内では大きな被害はなかったようですが、リアス式海岸の海岸沿いや、急峻な地形をしている奇異な環境に点在する集落は、能登半島地震同様に交通・通信等のライフラインの途絶により完全孤立する事が懸念されます。 自然災害は防ぐことはできません、災害が起こった時、生き残るために何が必要で、どう対応するかだと思います。 そこで伊方町が、今現在、もしくは今年度、南海トラフ等の大規模災害が起きた場合に今現在、準備・対策されていることをお尋ねします。 一つ目に災害が起きた時に必要だといわれるのが、水と食料で、一人当たり 1 日 3 リットルの水と非常食 3 日分が必要だと言われていますが、町民の皆様にも事前に備蓄や準備を促す活動はされているのか、伊方町では水や非常食をどの程度備蓄されているのかお尋ねします。 二つ目に道路等が寸断された場合、孤立した集落に対する支援をどう考えておられるのか。 三つ目に、避難所での生活となった場合に必要なのが、トイレやプライバシーの確保だと言われていますが、水道や電気が使えなくなった場合、避難所生活をどのような対策準備されているのかお尋ねします。		